

# 品川支部

令和八年2月1日発行  
〒141-0022  
品川区東五反田1-8-5  
TEL 3442-7075

# 二月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

## 百四十年祭 溢れる人・駐車場・展示場

百四十年祭祭典日は、警戒されていた雪も風もなく穏やかに開催されました

この後もそれぞれの各会で一年を通じて年祭イベントが目白押しです  
いろいろ参加して十年分の旬の喜びを分かち合いましょう



特別展示「おやさま」会場



大正の教祖殿  
(現祖霊殿)



現在の教祖殿

### ☆教務支庁からのお知らせ

・教区青年会女子青年合同総会  
東京教区では百四十年祭祭典後初の青年会女子青年合同総会を二月二十三日（祝）に開催いたします  
・布教の家 願書受付  
今年の布教の家の募集は二月二十五日迄です  
提出は布教二課までお願い致します

・教区ひのきしん  
今月は都南組です  
宜しく願います

### ☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会  
二月九日（月）午後六時～  
都南分教会にて  
・支部例会  
日徳實分教会会場  
二月二十八日（土）十一時から  
※ 二頁に詳細掲載

年祭活動「みんなでひのきしん」に協力感謝いたします。有り難うございました  
これからも活動は引き続き行って参る予定です  
今月の神名流し、ゴミ拾いひのきしんは本部行事のためお休みいたしますが  
大井在宅介護センターひのきしんは  
二十五日九時半からいつもの要領で致します

### ・布教部

一月二十五日まで募集しております  
た障害者アート展は  
三月二十五日から四月二十七日まで  
で本部南右二棟一階で  
「まあるくつながるアートの森」  
と銘打って展示されます  
お帰りの際にごぞお立ち寄り下さい

### ・厚生部

障害者おちばがえり大会」  
四月二十五日十時半開催  
北礼拝所に行われます

### ・青年会

おいでよ新社会人「三〇二六  
四月二十九日（祝）  
東京近辺に就職された方対象に  
東京でのつながりを持つて頂ける様  
企画された集まりです  
是非新しい仲間作りにも参加して下さい

### ・学生担当委員会

百四十年祭の今年  
学生おちばがえり大会」  
を本部で開催されます  
日取り等の詳しい情報と募集の為  
担当が教会を回らせて頂く事が  
ありますので宜しく願います

拠点教会	4日号	11日号	18日号	25日号
日本橋	直送	手配り	手配り	手配り
本 荏	直送	手配り	手配り	手配り
南 泰	直送	手配り	手配り	手配り
三ツ木	直送	手配り	直送	手配り
水豊田	直送	直送	手配り	手配り

時報手配り二月予定

・時報の発行は今月は  
四回となっています

# 品川支部例会

## 令和八年二月二八日 (土)

### 11時開始

## 場所 日徳實分教会

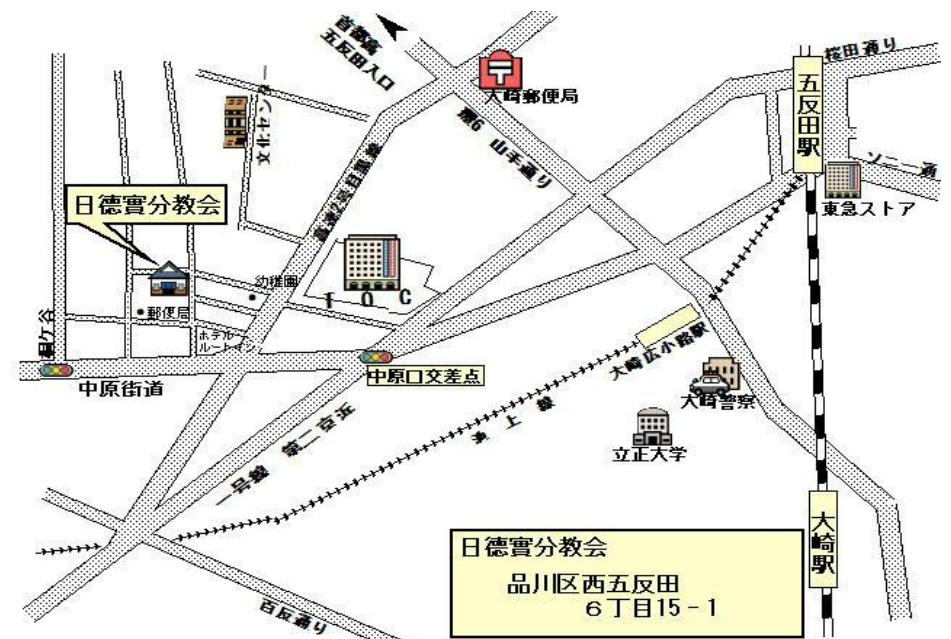
(品川区西五反田六丁目十五の一)

## 内容 座りづとめ よろづよ八首 二下目

### 東京教区、支部連絡事項 当該岡部教会長挨拶

### 昼食の用意頂いてます

### \*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



教祖  
百四十年祭



数年前、教会長に就任し、すぐに迎えた教祖百四十年祭の三年千日。今思うと、とても心など定まっておらず、なんとなしに迎えてしまい、ずるずると過ぎてしまったと反省しております。

そんな折、昨年九月に初めての教養掛の御用を頂きました。私は二歳の子と生後四ヶ月の子供がおり、一ヶ月間、妻に教会や家のことをすべてを任せて行くのは難しいと考え、妻にも教人講習を受講してもらい、家族揃っておちばでつとめさせて頂きました。

教養掛の期間中のある日のこと、長男の歩が教養掛室の隅を指し、「お化けがいる」と言いました。初めは気にも留めず聞き流していたのですが、何日も言うので、ある朝、面白半分興味本位で「どんなお化けなの？どんな色してるの？」とききました。

すると部屋の隅を指差し、少し下を向けて「赤」、少し上を向けて「白」と言いました。私はその瞬間、「教祖だー！」と思い、思わず泣いてしまいました。

教祖は今も御存命で、こんな足らぬ私ども家族のこともきつとお見守り下さっているのだと思ひ、胸がいっぱいになりました。

この事がある先生にお話させて頂くと「そういう幻や、不思議を見せてもらったらしい」と言われました。

「教祖が御存命で導き下されて、今を通らせてもらっている自覚が少くない人程、そう言う時だけ騒ぐんだ。教祖は今も御存命だよ。」とお教え下さいました。

その言葉は静かに、しかし深く心に沁み込みました。それ以来、教会では日々のお供物とは別に、教祖へ温かいお茶と和菓子を日に一度だけですが、お供えさせて頂き、教祖御存命を意識してつとめさせて頂いております。

日徳實の教会では、三年千日の心定めを「教会の者が心明るく通ろう」と決め、頭の片隅に置いて通らせて頂きました。

逸話篇百三十七「言葉一つ」にあるように、家の中で腹を立てることは最も慎むべきことでもあります。

私はこれまで、家族を勇ますどころか、正論をもって妻を諭そうとし、知らず知らずのうちにほこりの心で妻を苦しめていたと反省します。

正しさよりも、相手を思いやる温かさを大切にして家族が心明るく喜んで通れるようつとめようと思ひました。

教会の心定めをもとに、まずは私は妻から明るく喜んでもらえるようにつとめようと思ひ、私は妻に対して「ありがとう」と言う回数を増やそうと決めました。

しかし、最初は妻も気分良さそうにしていましたが、一ヶ月も経つと反応が変わりました「本当はありがとうって思ってるの？」「上辺だけじゃない？」とも思っただだと思ひます。

そこで今度はいつも以上に家事育児を積極的に行うようにしました。

しかし、中々良い反応は無く、どうしたらいいのか？と悩み、今度は妻の言う一つ一つの話をお聞きし、聞いて通ろうと決めてみたり、色々としました。しかしまだしっくりきていません。

ですが、ふと気づいたのが、そうしてつとめている自分の心が一番穏やかで助かっていた事に気がつきました。

教祖年祭を終え、今後も、身近な人に笑顔と温かい心を向け、諭達にもありまして、たように教祖にご安心頂き、お喜び頂ける教会家族になれるよう、確かに歩みを進めて参りたいと思ひます。

日徳實分教会長  
岡部義徳